

往来物を「古典探究」で活用するための覚え書き※1

【前提】最終的に解決すべき大きな課題

・「古典嫌い」の生徒を減少させ、生涯にわたって伝統的な言語文化の担い手としての自覚を深める人間育成を図る（国立教育政策研究所HP, 文部科学省2018参照）

→従来の文学作品を扱うだけでは限界がある（文学作品を否定するわけではないことに注意）

→**文学以外の古典資料を活用した新たなアプローチによる教材開発**が急務（本発表はその一環）

1. はじめに

・文部科学省（2018）の新設科目「古典探究」の言語活動に関する記述

キ **往来物**や漢文の名句・名言などを読み、社会生活に役立つ知識の文例を集め、それらの現代における意義や価値などについて随筆などにまとめる活動。（文部科学省2018。下線は発表者による。）

→新規に「往来物」が取り上げられている（本発表では「往来物」のみに注目）

2. 問題点

①従来にない資料を取り上げるため、どのような授業を構築できるか未知数

→往来物を活用した授業プランの提案が必要である

②大滝・高木編（2018）による『実語教』を活用した授業プラン（以下、概要）

a. 往来物の一種である「実語教」を読み、そこに描かれている教訓を通じて、ものの見方・感じ方を読み深め、自分の考えを拡大・深化する

b. 批評文を書くことで、現代における古典の意義や価値について探究する

◆②の授業プランの問題点

・そもそも「教訓」をそのまま取り上げるだけなら、**往来物である必然性は、ない**※2

→『論語』、『菜根譚』等、従来の漢文教材でも十分可能である

→つまり、「往来物」を取り上げる根拠が曖昧になっているということ

→**往来物の特徴を生かした授業**を構築すべき（＝教材自体の特質を踏まえた授業）

3. 往来物とは

・往復文例の形で書簡の書き方を示しつつ、実用・教養にする各種の語彙を盛り込み、社会的常識を学ぶ教科書としての機能をもつもの。

・実用文としての性格をもち、記録体※3で書かれる。平安時代末から、候文体も多く用いられている。

・近世の往来物は、大人のための手本から、子供の学ぶ教科書へと、役割が変わった。教訓科・社会科・語彙科・消息科・地理科・歴史科・産業科・理数科と、大きく7種に分類される。

（以上、『日本語学研究事典』：701-702, 927参照）

→「往来」とは、手紙文、すなわち**実用文**

→模範文例集、単語集、教訓集等、その内容は幅広い

→**変体漢文（記録体）**という、和文（『源氏物語』等）や漢文（『論語』等）とを繋ぐ和漢混交文（『今昔物語集』等）に類する文体的特徴（正格漢文ではない）をもつ

→**従来の漢文教材にはない特徴をもつ資料である**（従来の漢文と同様の扱いは、単純に過ぎる）

4. 結論—往来物を「古典探究」で活用するための覚え書き—

I. **実用文**である往来物自体の特質を生かす授業を組み立てること（「そこに（古典資料への）愛はあるんか？」）

II. 市井の人々が**実際に活用していたという価値**を十分に認識し、それを授業でも生かせる手立てを考えること（追体験・創作活動等の可能性）

III. **変体漢文**という特徴を踏まえ、和文・漢文・和漢混交文と関連づけて取り上げられること

（古文・漢文の融合授業、文体論との関連）

※1：本研究は、JSPS科研費20K13999「文学以外の古典資料を活用した新たな古典教育教材の開発—推論能力の育成と共に—」（研究代表者：清田朗裕）の助成を受けている。なお、本発表は、清田（印刷中）の成果に基づくものである。

※2：なお、『実語教』を取り上げるのであれば、『延慶本平家物語』（「第二中」、『延慶本平家物語長門本平家物語対照本文』中、勉誠出版、370頁）に、『実語教』が改変されたものに取り上げられていることから、実際の『実語教』の内容と、そして『平家物語』内で改変されている内容とが、どのような関係にあるのか探究する際に活用できるだろう。

※3：記録体とは、「漢文を骨格とした漢字専用の文章であるが、実用を主とするために、国語の表現を交え、語法・語彙・用字法が純粋な漢文の枠からはみ出て日本化したものである。【中略】変体漢文・和化漢文・和臭漢文・準漢文・亜漢文・擬漢文体とも言」う（『日本語学研究事典』：486）。本発表では、「変体漢文」と呼ぶ。

【参考文献】

大滝一登・高木展郎編（2018）『新学習指導要領対応高校の国語授業はこう変わる』三省堂／清田朗裕（印刷中）「往来物は「古典探究」でどのように活用できるか——」『国語と教育』46, 大阪教育大学国語教育学会／国立教育政策研究所HP (<https://www.nier.go.jp/index.html>)／日本国語教育学会監修（2018）『シリーズ国語授業づくり—高等学校国語科—新科目編成とこれからの授業づくり』東洋館出版／飛田良文主幹（2007）『日本語学研究事典』明治書院／文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領解説【国語編】』東洋館出版

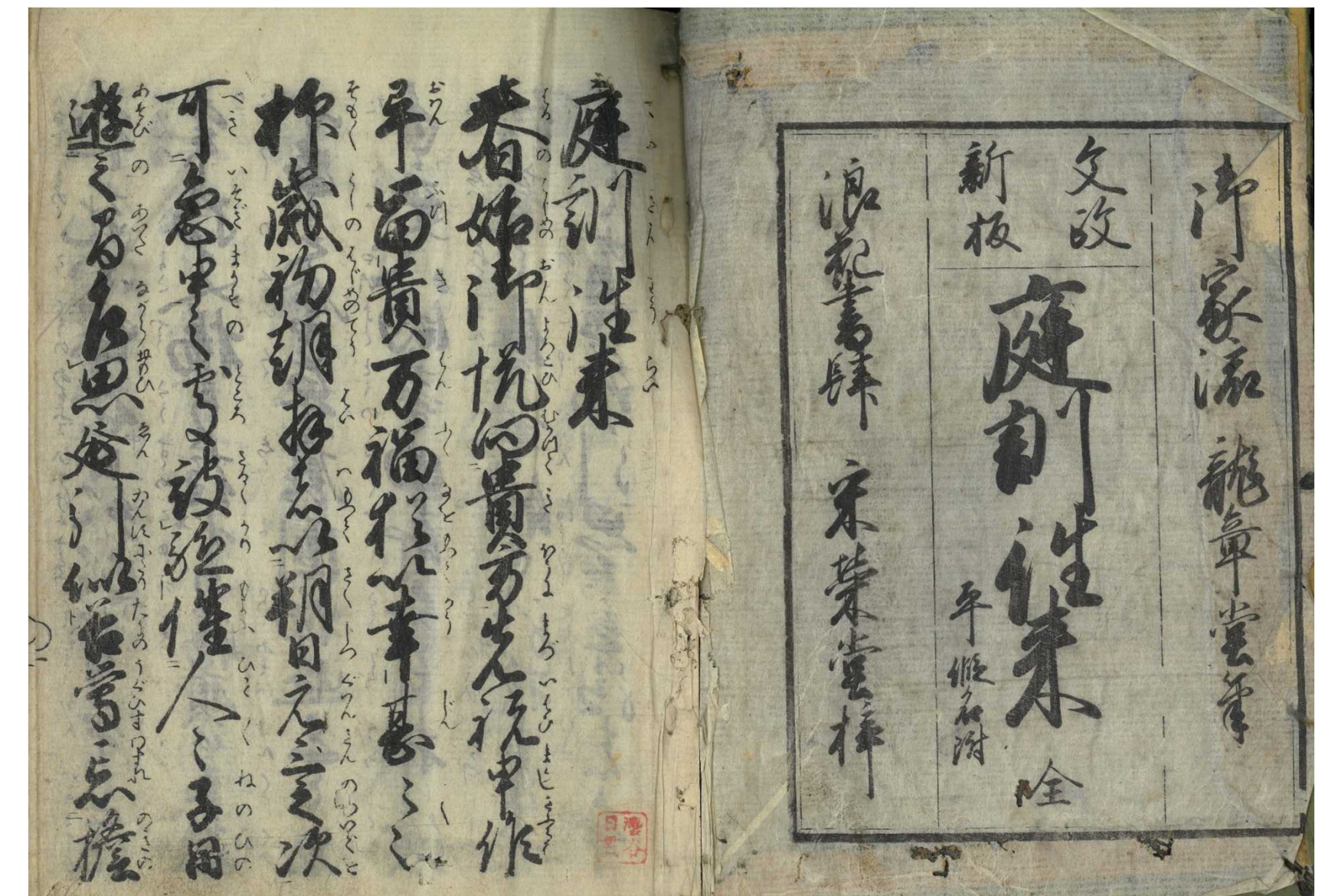


図1『文政新版庭訓往来平全仮名附』（清田朗裕架蔵本）



図2『大字仮名附実語教童子教』（清田朗裕架蔵本）